

2023年2月9日

2022年度第3四半期決算説明会 質疑応答

沖電気工業株式会社

Q：ソフト開発案件の失敗コスト▲20億は第3四半期に全て計上されているのか？ また一過性なコストなのか。

A：一部第4四半期にずれ込むものもあるが、基本的には第3四半期に計上。次の成長に向けた新たな領域へのチャレンジ案件にて発生した一過性のコストである。本件は一過性ではあるが、OKIのカルチャー、仕事の進め方などに真因があるとも考えている。今後は、こうした案件に確実に取り組めるように開発体制を強化していく。

Q：戦略的に注力しているDX領域の今後の見込みは？

A：DX領域の売上は、年間600億の計画に対して、およそ405億の見込。

Q：自動機事業のATM出荷台数について、国内、海外の第3四半期累計実績と年間見込を確認したい

また、今後の見通しについても伺いたい。

A：国内銀行向け：3Q累計実績 1,070台 / 年間見込 1,830台
流通向け： " 1,830台 / " 2,750台
海外向け： " 1,760台 / " 2,750台
3Q累計は4,660台。年間見込は7,330台程度。

A：本日のご説明の通り、設計変更による代替部材対応の生産見通しから、来年度はバックオーダーに順次対応できる予定。

Q：円安ドル高、元安ドル高の具体的な事業への影響は？

A：円安は売上高に対してはプラスに働く。一方、営業利益に対しては、海外からのドル建て仕入があるため、マイナスの影響。また、営業外では元建ての資産（売掛金）があり、今期は元安ドル高となったため、マイナスが発生。

Q：2023年4月1日付けの組織改正の目的は？

A：森社長の下、次期中計テーマ「成長への舵切」を確実に実行するための組織改正である。事業本部を無くし、よりシンプルな組織にすること。組織の壁を壊し、「チーム OKI」として、技術・商品・ソリューションを創出できる体制の構築を目指す。

（注）本資料における予想、見通し、計画等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、記載内容につきましては実際のやり取りに即しておりますが、理解しやすいように部分的に編集を加えております。